

リハビリテーション医療に携わる医師向けの e-ラーニング教材を作成しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男

今回、健育会グループでは「リハビリテーション医療に携わる医師の心得」と称した教材を作成しました。当グループで働くすべての医師を対象に、オンラインで視聴できるものです。この教材を作るにあたって、私が込めた思いをお話します。



健育会グループが掲げる「病院のValue（期待される価値）」は“質の高い医療”です。提供するには “チーム医療が確立されている病院”であることが欠かせません。このチーム医療の重要性は、急性期医療であろうが慢性期医療であろうが、まったく変わらないと信じています。

急性期病院と慢性期病院では、医師の役割が異なります。急性期において、医師はチームのリーダーですが、慢性期、すなわちリハビリテーションでのチームリーダーは必ずしも医師とはかぎりません。

しかし、リハビリにおいても患者さんやご家族は、医師の言葉を期待しています。医師が患者さんのご家族とお話する際、病状だけでなくリハビリテーションに関する今後の希望や期待まで説明してくれると、どれほどご家族は安心されるのでしょうか。

1.1.2. 医療制度上のリハビリテーション

わが国の医療制度

わが国の医療制度では入院・外来の別を問わず、**療法士の介入**に対してコストを算定できるようになっているほか、回復期リハビリテーション病棟として**入院環境の提供**を包括で算定できる

- 回復・環境調整いすれも専門技能者の介入は必要不可欠だが、「専門技能」には看護・介護や社会支援、栄養管理、医師による診断治療なども含まれるため、多職種連携による最善の提案・実現が期待される
 - 障害発生後に、回復・克服・受容などをとおして**新たな生活を模索し適応していく**ことが本来のリハビリテーションであり、その営みに多職種の介入は必須
 - 平成26年度診療報酬改定で新設された地域包括ケア病棟でのリハビリテーションは入院基本料に包括されている

1.2.3. 入院経過の回復イメージ

急性期～生活期の典型的バリエーション

回復は一様ではない
体力がついてくると訓練が軌道に乗り、病棟でも実践の場が増えることで回復が加速する…ことが多い

転院初期に「どの経過か」を読むには多少の経験を要する

発症・受傷

機能・能力

感染症などによる「足踏み」

再発

3～6か月で「症状固定」に向かう（脳血管障害）

1.2.3. 入院経過の回復イメージ

回復期 リハビリテーションの流れ-2

ご紹介～入院～環境調整・社会的支援

私たちのサポートは急性期病院からのお声掛けの時点で始まっています。リハビリ専門医による判定・予後予測をベースに、各職種による環境と支援の計画を事前に行います。ご案内後はスムーズな転入院につながるよう、病床稼働について急性期機関と随時連携しています。また転院後の不利の伏せ悪化対策として、医療情報の連携を医師が担当（制度導入後、転院は約半数に減少）

入棟時診察・多職種合同評価

医師をはじめとした全職種が集まり、全身状態と障害の病態について確認し、安全で効率的なリハビリテーション計画を立てます。

全身管理

急性期を脱したとはいえ、全身状態の管理は変わらず重要な課題

チームカンファレンス（方針会議）

各職種のチーム方針材料を定期的に話し合い目標の再確認を行います。

1.3.2. 3療法士-1

技術的な部分の要

理学療法士 (PT)

作業療法士 (OT)

言語聴覚士 (ST)

- 診療報酬で別途評価されるのも療法士の介入のみ
- リハビリテーションのなかでもとくに初期の主たる柱である「**機能回復**」を引っ張っていくのはPT/OT/ST
- 環境調整に属する「**障害の克服**」「**活動の支援**」の枠組みでも、技術的専門職としての役割が期待される（補助具の提案など）

同時にコメディカルーPT（理学療法士）やOT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）、ナースなどーも、医師のリーダーシップを期待していると感じています。リハビリテーションカンファレンスにおいても、医師の立場からの意見はスタッフ全員のレベル向上につながるでしょう。

このような希望や期待に応えるべく、医師には知識をさらに磨いていただきたい。本来の専門領域に加え、リハビリの知識をもった上でチームの一員として参加してほしいのです。しかし、国内には“日々の臨床に役立つ教育プログラム”があるとは思えません。

そこで今回、健育会では医師監修のもと、グループ内の知力を結集して教材を作り上げました。健育会のノウハウが蓄積された門外不出の貴重なものです。医師がチームを引っ張りながら、リハビリに携わるすべてのスタッフが“ワンチーム”となり、患者さんやご家族を安心させられる医療を提供するために、役立つツールとして完成しました。